

速報です。

安城で見つかった

人面文壺形土器が、

国の重要文化財に

決定しました。

問▼文化振興課(☎4477)

昭和52年、人面文壺形土器が東町の亀塚遺跡から出土しました。亀塚遺跡は、国指定史跡である二子古墳・姫小川古墳をはじめ、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての重要な集落遺跡や古墳が密集する、東海地方を代表する遺跡群の一つです。

左の写真をご覧ください。素焼きの壺の表面に、人の顔が描かれていることがわかるでしょうか。瞳のない眼で悪霊をにらみつけ退散させる辟邪(魔除け)として、特別な意味があると考えられています。つまり、これは「正義の味方」の顔なのです。

全国各地で見られる「人面文」のなかでも、表現の精緻さでは群を抜く優品。人面文部分の遺存状態も良く、弥生時代の風俗を知る第一級資料です。

重要文化財指定を前に、4月から5月にかけて東京・上野の東京国立博物館「平成28年新指定国宝・重要文化財」展にて展示されていましたが、7月1日(金)より、歴史博物館の常設展示室でいよいよ展示が始まります。

「国の宝」となった安城の「顔」人面文壺形土器。ぜひご覧ください。



7月1日より、歴史博物館にて公開。



市公式ウェブサイトへGo!